



## 秋葉 笑里さん (18)

[なぎなた競技 (成年女子)]

／鹿屋体育大学1年]



南さつま



MINAMISATSUMA ENGINE

VOL.24

**なぎなた**競技には、「試合」と「演技」の2つがあります。試合は、防具を身につけた2人の試合者が、定められた部位（メン面部、コ小手部、ド胴部、ス脛部、ス咽部）を確実に早く打突して勝負を競います。演技は、防具を身につけず、全日本なぎなた連盟のしかけ応じ8本のうち定められた3本を、2人一組の演技者で行い、姿勢・間合い・技術などの優劣を競い合います。「試合は相手との駆け引きが楽しいし、演技は演技者2人で呼吸を合わせて勝つと嬉しい。なぎなたの魅力は多様な技と、袴・立ち振る舞いなどに芯の通ったの美しさがあるところ」と話すのは秋葉笑里さんです。

秋葉さんがなぎなたに出会ったのは、小学校3年生の頃。南九州市のクラブに通っていた姉の練習に立ち会った際、これまで見たことない競技に新鮮さを感じ、次第になぎなたの面白さに魅了されるとともに競技力も向上、小学校6年生で初めて出場した全国大会で3位の成績を修めます。

川辺高校在学中、いきいき茨城ゆめ国体（第74回国民体育大会・令和元年）の少年女子の部で試合、演技ともに準優勝の立役者となりました。高校卒業後は鹿屋体育大学に進学し、成年女子の部の県強化指定選手として、3人の出場枠を狙います。

「掛け声や構え、足さばきなど、各チームの特色も見どころ。競技会場は近隣の枕崎市なので、ぜひ足を運んでなぎなた面白さを感じてほしい。地元での国体に出場し優勝したい」と、迫る選考会に意欲を示します。



燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会への出場を目指す、本市ゆかりのアスリート・パラアスリートを紹介します。